

経営比較分析表（平成30年度決算）

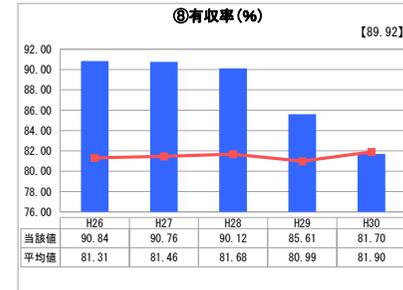
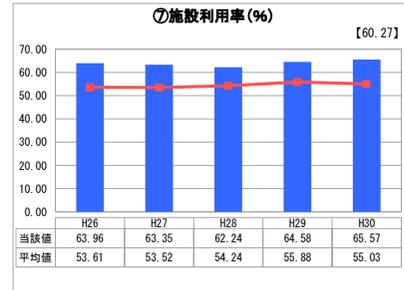
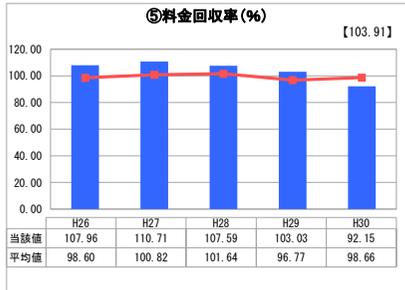
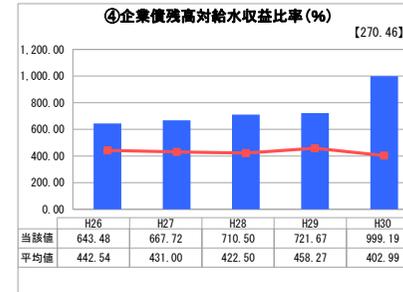
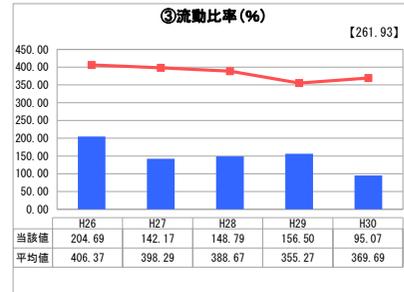
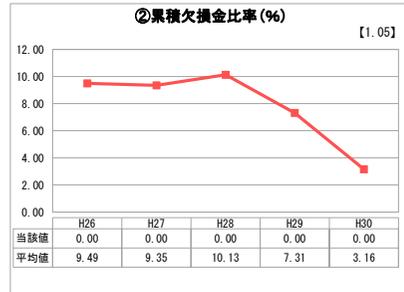
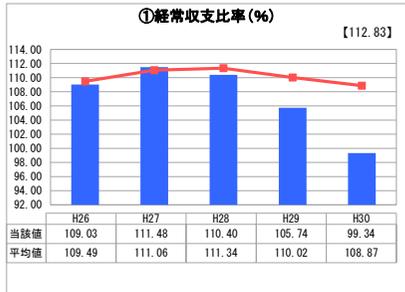
京都府 宮津市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	38.00	99.87	2,741	

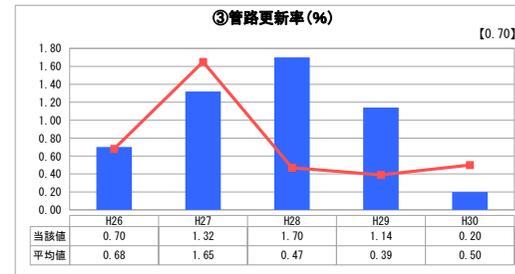
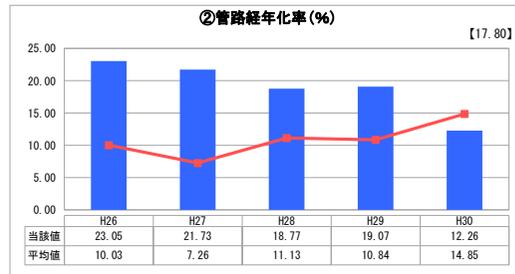
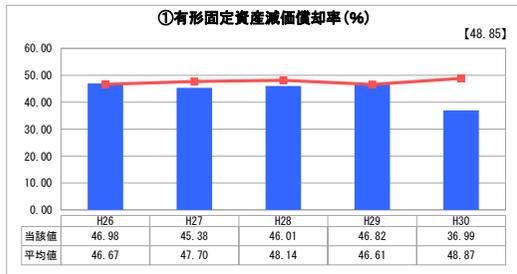
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,030	172.74	104.38
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
17,886	16.73	1,069.10

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
H23の料金改定により、一時的に改善が図れたが、給水人口の減少等によりその水準が維持できていない。また、H30.4.1に簡易水道事業との経営統合を行ったため、収支とも増加したが、中でも旧簡易水道事業の施設等における原価償却費の増加が大きく、H30決算は赤字となったことから、更なる収入確保と経費抑制を図る必要がある。
- ② 流動比率
年々悪化の傾向にあったが、簡水統合により100%を下回った。給水収益等の確保を図り、支払能力を高めていく必要がある。
- ③ 企業債残高対給水収益比率
基幹浄水場の大規模改修や老朽石綿管布設等の実施により、類似団体と比較すると高い比率で推移している。
- ④ 料金回収率
類似団体と比べ高い比率で推移していたが、簡水統合により100%を下回った。次年度策定予定の経営戦略（水道ビジョン）に基づき、経営改善を図る必要がある。
- ⑤ 給水原価
高利率企業債の繰上償還等により、一定の費用の効率性は確保してきたが、簡水統合により類似団体よりも高い水準となったことから、さらなる投資の効率化や維持管理費の削減等を行う必要がある。
- ⑥ 施設利用率
類似団体と比べると高い水準となっているが、施設の統廃合などによる再構築を図り、更なる効率化を図る必要がある。
- ⑦ 有収率
減少傾向にあるものの、類似団体と比較すると高い比率で推移してきたが、簡水統合により、類似団体を下回った。施設の統廃合や老朽管の布設替え等により、さらに改善を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率
類似団体と同程度の状況で推移してきたが、簡水統合により率は減少。施設の長寿命化等により適正な施設状況を維持していく必要がある。
- ② 管路経年化率
年々比率は減少傾向であるものの、類似団体と比較すると高い比率となっていたが、簡易水道統合により耐用年数超過の管路が増えたことから、老朽管等の布設替えにより改善を図る必要がある。
- ③ 管路更新率
H30の石綿管布設完了に向け、積極的に事業実施したことにより、比率は上昇傾向にあったが、簡水統合により比率は悪化。早期に水道ビジョンを策定し、計画的に老朽管の布設替えを行う必要がある。

全体総括

給水人口の減少、老朽化施設の更新、簡易水道事業との経営統合など、経営を取り巻く環境が厳しくなっていることから、H30に水道事業ビジョン策定委員会を設置し、経営戦略等についても議論を行っており、次年度中に策定する予定としている。ビジョンに基づき、収益増、費用抑制への取組をさらに進める必要がある。